

論文

幼稚園における食育に関する研究 — 高知市内幼稚園での観察分析から中国の幼稚園における食育への示唆 —

关于幼儿园饮食教育的研究

— 通过考察分析高知市内幼儿园给中国幼儿园饮食教育的启示 —

劉 智萍 (中国天津師範大学教育学院)

菊地るみ子 (高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門)

要旨

在中国, 学校教育课程中没有设置家庭生活课, 因此, 对学生有关饮食生活的教育几乎没有。青少年在忙碌的学习, 生活中, 丧失了有规律的饮食生活, 使青少年患生活习惯病, 如肥胖病, 糖尿病, 高血压, 心血管等疾病等比例逐年递增。

在日本, 围绕儿童营养和健康的问题, 颁布实行《食育基本法》, 修订了《幼儿园教育要领》, 增加了饮食教育的内容。笔者在2010年7月-9月先后多次考察访问了高知市杉之子第二幼儿园和若草幼儿园。两园饮食教育实践活动的特点如下。

共同特点是, 两园教育活动都充分考虑到, 饮食教育不仅是吃饭问题的教育, 不仅仅是促进身体的健康, 通过饮食教育, 要培养儿童健康的饮食生活习惯, 感恩的心和体谅他人的情感。

另外两园的教育活动各具特色。杉之子第二幼儿园, 充分利用午餐形式的变化, 培养儿童对食物的兴趣和关心。通过每周一次带午饭的活动, 亲子料理教室等活动, 加强了家庭与幼儿园的联系, 密切了亲子关系, 增进了儿童对父母(家庭)的信赖感。

若草幼儿园则是充分利用自己优越的自然环境, 通过自己栽培, 收获, 调理等“自给自足”, “自食其力”的饮食实践活动, 及每周一次的园外保育活动(在私有的山林的一日活动), 做到了日常保育活动和饮食教育的密切结合。

通过对高知市杉之子第二幼儿园和若草幼儿园饮食教育实践活动的考察, 掌握了幼儿园饮食教育实践活动的的内容, 方法和经验, 为在中国开展饮食教育, 解决儿童的饮食问题提供了宝贵的经验。

在中国《幼儿园教育要领》和《幼儿园工作规程》中都有关于饮食教育的要求, 从涉及的内容上来看, 更重视对饮食的管理。幼儿园的具体指导上也是注重管理工作。如“别说话, 好好吃”, “快点吃”, “不要把饭菜撒在桌上”, “保持桌面的干净”等, 饮食教育的实践活动和一日三餐的结合不足。

最后, 对中国幼儿园的饮食教育, 提出以下建议。

- 1, 创造融洽的气氛, 使幼儿们享受进餐的快乐, 渡过愉快的用餐时间。
- 2, 充分利用三餐时间, 根据供给饮食的内容对幼儿进行饮食教育, 提高幼儿对食物的兴趣和关心。
- 3, 通过饮食教育, 培养幼儿健康的饮食习惯, 及感恩心和同情体谅他人的感情。
- 4, 把饮食教育渗透在幼儿园的各课程(健康, 语言, 社会, 科学, 艺术的5领域)的教学活动中。

I. 研究目的

中国では、学校教育の中に教育課程として家庭科を設置していない。このため、日本の家庭科で学習している内容を、学校教育で学ぶ機会は乏しい¹⁾。したがって、子どもに対して、食生活に関する教育は、学校教育ではばなされていない現状にある。幸い、中国では就学前教育が盛んであるので、小学校入学以前の子どもたちを対象にして、できるだけ早期に食育を始め、できるだけ早期から食生活の改善向上をめざしたい。

一方、日本では、2005年7月「食育基本法」を施行し、2006年3月「食育推進基本計画」を策定し、内閣府に食育推進室を設置して、内閣総理大臣を会長とする食育推進会議を置いて食育の推進に取り組んでいる。

「食育基本法」の前文では、「食育」とは「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる²⁾こととされている。また「食育」は「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」であると位置づけた上で、「あらゆる世代の国民に必要なものである」が、特に子どもたちに対する食育について、「心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるもの²⁾と強調している。こうした取り組みを進めるようになった背景として、現代の食をめぐる問題がある。日本における1990年代以降の現代の食やそれに起因・付随する問題として、森田は次の9点に分類

整理している³⁾。それらは「①脂肪摂取の過剰など、栄養バランスの悪化傾向、②朝食欠食の習慣化、孤食（一人で食べる）や個食（家族が各々異なった料理を食べること）の増加傾向など、食習慣の乱れ、③児童生徒の肥満の増加、過度の痩身、体力の低下傾向など、健康への影響、④食の安全に対する信頼の喪失、⑤体に良い食品・悪い食品に関する情報が氾濫する一方、適正な情報が不足していること、⑥食の外部化、ライフスタイルの多様化などにより、保護者が子どもの食生活を把握し、管理していくことが困難になっていること、⑦家庭において、食材に関する知識、調理技術、食文化、食に関するマナーなどを継承することが難しくなりつつあること、⑧食料資源の浪費、⑨食料の海外依存が進行し、食料自給率が低下していること」³⁾である。

特に、子ども時代は発育・発達の重要な時期であり、栄養素摂取の偏りや朝食の欠食の問題など、子どもを取り巻く食環境が大きく変化し、子どもの食生活や栄養、健康をめぐる問題が広く認識されて、食育の対応策が施行されている。食育に関する取り組みは小学校や中学校段階でも進められているが、子どもの年齢が高くなった段階では、できあがった生活習慣を変更して、より良く変えることはなかなか困難である⁴⁾。できるだけ早期に食育を始め、できるだけ早期から食生活の改善向上を進めていくことは、中国においても日本においても重要な課題である。

日本では、2008年3月に「幼稚園教育要領」が改訂され、2009年4月から実施されている。この新しい「幼稚園教育要領」の「健康」領域に、新たに食育の内容が示されている。この「健康」領域の中で、食育について「先生や友達と食べることを楽しむ」⁵⁾という内容が新たに含められた。内容の扱いでは「健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること」⁶⁾と定めている。

日本は、食育における問題の先行国であるゆえ、日本で既に経験されている問題は、いずれ中国でも起こるだろうと思われる。日本の経験に基づき、中国における食生活の諸問題の解決に役立つ方法を探り出し、食育が実施できるように、教育内容、教育方法を探り、教材開発することまでを取り組みたい。また、日本、とりわけ高知市内の幼稚園での食育実践の事例を検討することで、その課題を探りたい。

そこで、本研究では、次の3点を研究の目的とする。

(1) 実際の幼稚園で、新しい幼稚園教育要領が、どの

ように展開されているかを把握し理解すること。

(2) どのような教育の成果と課題がでてきているのかを明らかにすること。

(3) 実際の幼稚園でどのような食育が実践されているのか、現場訪問により実践と実態を把握し理解すること。

食育の実態を把握した上で、「食育基本法」と「幼稚園教育要領」の意義をいっそう理解し、実践活動を指導していきたい。

II. 中国における食生活に迫る主要な問題と青少年の健康的な問題

近年、経済の急速な発展に伴って、豊かな社会生活が実現してきて、商品はますます豊富になって、食品も豊かになっている。食品の種類が多さは人々を混乱させているが、人々は世の中の食べ物を考えずに食べており、健康に関する危険がつきまとっている。飲食の外部化（外で食事をとる機会が増えてきた）と、飲食の多様化により、すでに子どもの食生活習慣が変化している。中国の伝統的な朝食である餅、油パン(油条)、豆乳や豆腐料理、ワンタンなどは好まれず、ファーストフードやパンなどを好むようになってきている。また、中国の社会の情報は氾濫していて、メディアがさまざまな飲食物の商品情報を報道するが、食生活に関する教育がなされていない中で、受け入れる者が健康な飲食の知識と飲食に対する正しい認識をもっておらず、飲食と関係がある情報の適切な選択と判断能力を備えていない。

食生活が混乱するにつれて、青少年に生活習慣病の増加が懸念され深刻な社会問題となっている。例えば肥満症、糖尿病、高血圧、心臓血管の疾病等は年々少しずつ増加している。2004年の調査結果によれば、「どの年齢グループでも肥満率はある程度上昇し、都市の10-12歳の男子は平均的に1.17%上昇して、肥満率は15.97%に達している。」⁷⁾と指摘されている。1980年代から、「中国の児童の糖尿病の発病率はほとんど10年ごとに倍増している。現在10人の糖尿病の患者のうち1人が青少年であり、その中で最も速く増大するのは2型の糖尿病である。これから推測すると、中国では千万人近くの児童が糖尿病をわずらっているのではないかと考えられる。」⁸⁾という報告もある。2005年に、全国の小・中・高校生の運動や健康についての調査結果は、「下降傾向を呈しており、太っている問題は、5年前により更に深刻である。」⁹⁾としている。統計によると、「北京市の2-18歳の青少年の肥満率は21%に達し、上海楊浦、宝山などの区の5700名余の小学2学年~4学年の児童に対する調査の結果、肥満率は36%まで達した。」¹⁰⁾と指摘されている。

以上の問題を解決するため、子どもの教育を通して、

具体的には幼児期から食育内容を教育課程に取り入れなければならないと考える。今、劉は天津師範大学教育学院に勤めており、学齡前教育専門の教員として、幼稚園の教員養成ための課程を担当しているため、食育における教育内容を授業に取り入れようとしている。

Ⅲ. 日本における食生活に迫る主要な問題と青少年の健康的な問題

前述した中国での状況は、日本では先行して問題となっていた。2005年の国民健康・栄養調査結果では、体型が「普通」の者の比率が、男子は1988（昭和63）年の64.0%から、2005（平成17）年の57.0%と7ポイント減少、女子は1988年の62.1%から2005年56.6%と5.5ポイント減少している¹³⁾。さらに、朝食を「子どもだけで食べる」割合の増加、夕食を19時以降食べる子どもの増加などが指摘されている。そこで、近年食育が推進されるようになったわけであるが、学校教育の中の教科としての中心的役割を担う家庭科を重視する方向にはなっていない。日本では、小学校5年生から家庭科教育がはじまり、中学校と高等学校でも家庭科教育が実施されている。その点では中国とは違って食生活教育があると言える。さらに、家庭科の中学校、高等学校における男女共学が実現したのは喜ばしい転換であるが、近年は家庭科の授業時間が削減されて、じゅうぶんな教育成果を上げることが困難な状況に置かれている。2008年告示された小学校と中学校の学習指導要領においても、家庭科は従前通りの授業時間であり、小学校は5年生で60時間、6年生で55時間、計115時間しかないのである。少ない学習時間で削られるのは実習であり、食生活に関するスキルの低下が懸念される事態となっている。そのため、日本においても幼稚園など就学前の教育機関で、どのような食育が行われているのかを知り、その成果と課題を検討しておくことは必要なことである。

Ⅳ. 本研究の取り組み内容

本報では、研究内容のうち、高知市内の幼稚園での観察を通して、食育の実践活動を中心に検討する。

1. 観察対象

観察の対象としたのは、高知市内の杉の子第2幼稚園と若草幼稚園である。このうち、若草幼稚園は15、6年前から食育に熱心に取り組んでいることで有名な幼稚園として選定した。

2. 観察方法

対象とした幼稚園の食育の実践研究活動を、現場訪問により観察し、園長と教員にインタビュー調査を行う。

3. 観察日時と観察者

(1) 杉の子第2幼稚園 2010年7月9日（金） 11:00-

12:30（訪問者：劉・菊地）

(2) 若草幼稚園 2010年7月14日（水） 9:00-10:00（訪問者：劉・菊地）、7月21日（火）9:00-10:30および9月3日（水）9:45-12:30（訪問者：劉）

V. 研究結果および考察

1. 杉の子第2幼稚園における食育に関する活動

(1) 食育の内容について

杉の子第2幼稚園では、食育の活動として、給食、親子料理教室、遊びの中での食に触れる活動が見られた。

今回、給食を中心に、幼稚園現場ではどのような状態になっているか、給食時間でどのような指導をしているのかについて、杉の子第2幼稚園で観察した。

給食の実施状況は、表1・表2のようであった。

表1 給食の実施状況

曜日	内容
月、水	パン給食（パンと牛乳） 副食（おかずや果物）は家からの持ち寄り。注文も可
火、木	お弁当給食（外注：メニューは表2）
金	手づくり弁当の日（家からのお弁当）。希望給食も有

表2 2010年7月の給食のメニュー

	1日（木）	6日（火）	8日（木）	13日（火）	15日（木）
	おたのしみ 弁当	肉だんご 弁当	チキンライス	ビーフカレー	エビチリ弁当
主菜	エビフライ 若とりの唐揚げ	肉だんご	キスの天ぷら	野菜と肉のカレー煮込み	エビチリ
副菜	かにかまサラダ、ブロッコリ塩ゆで、野菜ふりかけ	春雨サラダ お魚ボール ボイルキャベツ、のり玉ふりかけ	ほうれん草のごま合せ ボイルキャベツ	菜の花白合え、メンチカツ、ヤクルト	ゴボウサラダ、あらびきウインナー、ボイルキャベツ
デザート	マンゴープリン	杏仁豆腐	オレンジ	ミニピーチゼリー	梅干

このように、給食に変化をもたせながら、食事の時には、「お弁当」の歌を歌って、「おててをパチンとごいっしょにあわせて『いただきます』』と言って、昼食を食べ始める。

「いただきます」という言葉の意味について、山本健吉園長は「いただいているのは、命です。人間が生きていくために口にする食物は、動物や食物の尊い命をいただいているのです。」というような話を幼児に伝えているとのことであった。「命をつなぐためには、他の命をいただかなければなりません。その思いを人として持ち続けることが大切です」「食べ物が口に入るまでには、多くの人の努力があること」というような話は、幼児の食に関する意識や関心を高めると思われた。

特に、この園では金曜日の取り組みである手作り弁当の日を大切に考えているとのことであり、食生活面において幼児と家庭のつながりを持つことができるように取り組んでいることが分かった。

(2) 給食の様子と特徴

食事の時間になって、幼児がまず手洗いをした後、弁当を机の上に出して、「おべんとう」の歌を歌って（具体的な内容は、表3に示す）、あいさつをして、食事をした。

表3 おべんとうのうた（歌詞）

<p>おべんとう(天野 蝶)</p> <p>おべんとうおべんとう うれしいな おててもきれいに になりました みんなそろって ごあいさつ</p> <p>おべんとうおべんとう うれしいな なんでもたべましょ よくかんで みんなすんだら ごあいさつ</p>
--



写真1 給食の様子

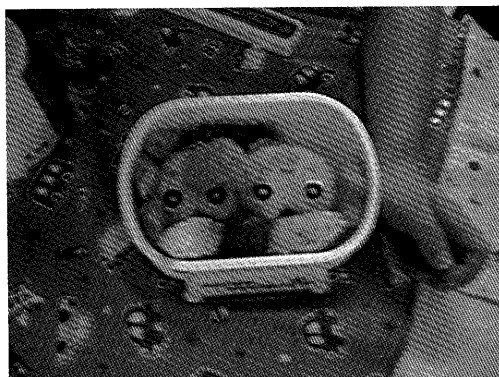


写真2 かわいい手作り弁当



写真3 当番によるあいさつ

幼児たちは、楽しい雰囲気の中で、感謝の気持ちを持って、友達と一緒に食事をしたり、さまざまな食べ物を食べる楽しさを味わったり、食べているものについての話をしたり、楽しい食事時間を過ごした。特に、4歳のうさぎ組では、4人の児童が当番をして、規則正しい食習慣をみんなが身に付けようという気持ちをもって、「いただきます」のお辞儀をして食事を始めることが、劉にとっては強い印象に残った。幼児が家族の作ったお弁当の味を味わいながら、愛情を感じ、家族への信頼感が強くなると思われた。

なお、幼稚園からいただいた資料では、親子料理教室の活動で、親子でケーキを作ったり、一緒に食事をしたりする活動があり、それらによって家族そろって食事をする事のよさや大切さが感じられた。ままごと遊びのような食に触れる活動があり、幼児が遊びながら食生活の態度、能力、知識などを習得していた。

(3) 杉の子第2幼稚園における実践活動の考察

杉の子第2幼稚園の食育についての実践活動を観察して、食育の進め方にいろいろな工夫が見られた。給食の時間を十分に利用し、給食の内容の変化により、幼児に食べ物への興味や関心を持たせた。給食やお弁当は栄養のバランスを配慮し、盛り方も工夫されていた。幼児たちは、楽しみながら食事を進めていたという印象が強く、子どもにとって、食事時間が一番大事な時間だと劉は感じた。食習慣の形成については、幼児の自尊心を尊重して先生たちが優しい指導をしている場面も見られた。中国の幼稚園ではしつけとして注意することが多いので、このことが印象に残った。

食育は食べることだけではなく、心理面も配慮して子どもを育成することにより、たくましい子どもを育成しようとしていることを感じた。

2. 若草幼稚園における食育に関する活動

(1) 食育の内容について

若草幼稚園では、まず自分を大切に、次に身近な自然へ目を向け、最後に地球環境のことを考えられる人間になることをめざして実践活動に取り組んでいる。自分を大切にすることは、食べものの大切さと自尊感情につながると捉えている。そこで、幼児期に身に付けておきたい「食べることの大切さ」に重点をおいて指導をしている。具体的には「子どもの健やかな心と体のために」を目標として、「よいものを食べる、心を食べる、季節を食べる、文化を食べる」というような実践活動を展開している。このような実践のきっかけになったことは、子どもたちのままごと遊びが、家庭料理ではなくレストランごっこが多くなったこと、電子レンジ料理が多く登場するようになったことだと、岡林道生園長先生は説明

された。また幼児が持ってくる弁当に好きなものだけが多くなっていく様に気付き、給食を始めて地産地消に取り組み始めたそうである。鰹節や昆布、じゃこの出汁をとって調味料をなるべく使わず、野菜は自園栽培か無農薬のものを使い、肉などもこだわって選んでいるとのことであった。

観察場面でも、実際に幼児たちで育てた野菜を自分たちで収穫したり、調理したり、食べたりして、「食」についての知識を自然と身につけ、食べ物やそれを作る人たちへの感謝を学んでいた。収穫から「食」への取り組みとして、「芋掘り」と「焼き芋パーティー」があった。

その他、週に一度は若草幼稚園自園の森である「すくすくの森」に園外保育に出かけ、自然の中で伸び伸びと体を動かして遊び、五感を通して自然を感じさせ、食欲を高めて、「おいしい」食事をできるようにしていると岡林園長先生から紹介された。

(2) 現場での観察結果

若草幼稚園では、畑で各種類の野菜を栽培している。例えばトマト、キュウリ、ナス、枝豆、スイカなどである。その他に、水稻も栽培している。幼児たちは、自分たちでトマトとナスなどの世話をしていた。劉が観察しに出かけた日（7月21日）は、先生が幼児をつれて畑へトマトを取りに行く日であった。先生が「赤く色づいたトマトを取って」と言うと、幼児たちは喜んで畑で摘み取っていた。幼児はトマトを見つけたら「先生、ここにたくさんできたよ。」と言いながら、成熟したトマトを取った。収穫したトマトを園庭できれいに洗った後、かじりながら美味しく食べた。A男が「おいしい」と言いながら口に入ると、トマトが好きでないB男が「ぼくも食べてみる。」と言った。幼児たちは収穫できたものを「食」することができて、ニコニコしている顔が現われた。



写真4 トマトを摘みとり



写真5 いっぱい採ったね！



写真6 おいしいね！



写真7 ナス料理をしよう！

栄養について学ぶことでは、具体的に、給食の際、食品分類表を用いて食材を「病気から守ってくれる食べ物（緑：ビタミン）」「丈夫な体をつくる食べ物（赤：タンパク質）」「強い力が出る食べ物（黄：炭水化物）」「おいしいあじのお手伝い（白：調味料とミネラル）」の4つのカテゴリーにわけて、学ぶ機会を設けていた。これらの分類は、この幼稚園のオリジナルな取り組みであり、家庭でもこれら4つが揃っているか気にかけてほしいという願いをもった取り組みである。

観察日では、給食のおかずは、豚肉ときのこの炒め物とこんにゃくと厚揚げの煮物であった。幼児たちは、おかずをみながら、「にんじん、きのこ、たまねぎ、にらなどの野菜は緑」、「お肉、厚揚げは、赤」などいろいろな栄養に関する言葉を口ぐちに言った。



写真8 給食の写真

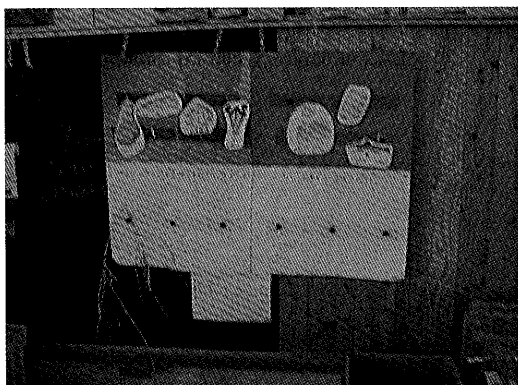


写真9 四色ランチョンマット

(3) 若草幼稚園における実践活動の考察

幼児たちは、野菜を育てることにより、「葉っぱが出てよ!」、「土が乾いているから水をあげよう。」「花がさいてるよ。」と様々なことに目を向けている。小さい気付きには「嬉しい」、「不思議だな」という感情が伴っているのではないか。逆に、育てている植物が枯れてしまうと「悲しい」と感じるのではないか。だから、野菜を作るだけではなく、この活動は幼児の感情を豊かにさせると思われた。

このような、自らが野菜や果物を栽培する活動に参加して、自分が「食べる」ものへの思いを高めることが大切であると考えられた。

若草幼稚園の食育活動は、栽培から取り組むことにより「十分に体を動かす」、「様々な食べ物に興味や関心を持つ」活動となって、日々の幼稚園の生活活動が食育活動としっかり結び付いていると思った。

3. 杉の子第2幼稚園と若草幼稚園の食に関する研究活動の比較

訪問観察した高知の幼稚園2園では、食に関する実践研究活動が工夫されていた。各幼稚園は自園の特徴を生かして、それぞれ特色を持つ実践活動を展開して、幼児に健康的な食習慣を形成させるため、基礎づくりをしている。両幼稚園での食育についての特徴を、以下にまとめる。

(1) 共通点について

両幼稚園では、食育は「食べる」ことだけではなく、健康的な体づくりだけでなく、「食」は、幼児の感情を豊かにさせる教育であった。幼児にとって最も重要な規則正しい食習慣を身につけ、「感謝の気持ち」と「思いやりの心」の育成などを促していたと考えた。

(2) 異質点について

1) 「食」に対する杉の子第2幼稚園での取り組みについて、給食の変化により、給食時間を利用し、子どもに食に関する興味や関心を持たせていた。手づくり弁当や親子料理教室などを通して、家庭と幼稚園の連携をはかり、幼児期での家庭とのつながりをもたせる大切な取り組みであると考えた。

2) 若草幼稚園については、菜園や森など自園が有している豊かな自然環境を利用して、日常生活活動と食育活動をしっかり結び付けて、「よく遊ぶ」、「よく食べる」というように食育活動を展開していた。

さらに、園児を野菜や果物などの栽培活動に参加させ、「自給自足」、「自食其力(自分の力で生活する)」として、食べものへの思いを高めることが大切であると考えた。

3) 杉の子第2幼稚園では、矯正箸を使っている子どもが多くいたが、若草幼稚園ではあまり見られなかった。箸の持ち方は、道具や粘土を使った遊びの中で次第に上達していくものと若草幼稚園では考えており、親の考えで一部使用者がいるが、遊びの中で育てていないからだろうとの受け止めをされていた。

今回、高知市内の幼稚園を訪問観察して、食教育に関する実践と実態を把握した。各幼稚園の教育成果と経験を参考にし、中国では、食育における教育内容を授業に取り入れようと考えている。

日本の経験を鑑として、中国における食生活の諸問題の解決に役立つよう努力していきたい。

4. 中国の幼稚園における食育の内容

中国の都市部では、多くの幼児が幼稚園で朝食、昼食、夕食の3食を食べている。

中国の幼稚園教育指導要領(中国幼儿园教育指导纲要)では、5つの課程(健康、言語、社会、科学、芸術の5領域)の活動があり、その中に食育に関わる内容も含まれている¹²⁾。

この幼稚園教育指導要領の「健康」領域の中には、次の7項目が「内容と扱い」として掲げられている¹²⁾。

1. 良好な教師と幼児、仲間との関係をつくり、幼児に集団生活する中であたたかさを感じさせて、気持ちよく、安全性・信頼感を確立すること。

2. 家庭と協力して、幼児に必要な科学的な生活リズムを身に付ける。よりよい幼児の飲食、睡眠、洗面、排

泄などの生活習慣と、生活を自分で処理する能力を育成する。

3. 幼児が身の回りを清潔にし、自分たちで生活の場を整え、衛生を維持できるようにすること。

4. 幼児の生活と結び付けて安全、栄養と保健の教育を行うこと。幼児の自分を守る意識・能力を高めること。

5. 多彩な戸外の遊びと体育活動を展開して、幼児の体育活動への興味と習慣を育成し、体質を強めて、環境への適応を高めること。

6. 幼児の興味を高め、基本的動作を発展させ、動作の協調性、融通性を高める。

7. スポーツの中で、幼児の強靱で、勇敢で、困難に負けないような意志品質を育成し、幼児と主導的な立場、楽観的で協力する態度を育成する。

この中では、幼稚園における食育に関する内容は、「健康」領域の中に「2. よい飲食習慣を育成する」という内容が含まれている。また、内容の扱いでは「幼児の生活と結び付けて安全、栄養と保健の教育を行う」などを定めている。指導の要点では「正しい健康な理念を確立する」¹³⁾と規定している。

また、「社会」の内容と扱いの中には8項目あるが、そのうち「6. 家庭、社会と地域の連携を通して、幼児に自分の家族と自らの生活に関連して各産業の人々への関心を持たせる上で、労働者を心から愛することと労働の成果を尊重する気持ちを育成すること。」¹⁴⁾が食育に関わる可能性がある。

「科学」の内容と扱いは7項目あるが、そのうち「7. 幼児の生活経験を踏まえ、自然、環境と人間生活との関係を理解させる。身の回りの小さな事から、環境防護意識と行為を育成する。」¹⁵⁾が食育との関連が考えられる項目である。

また、中国の幼稚園における食育に関する内容は、中国「幼稚園の業務規程（幼儿园工作规程）」¹⁶⁾でも取り上げられている。それらは、次の通りである。

第1章総則の第三条の第5条で、幼稚園の保育と教育をする主要な目標は、「よい生活習慣を育成する」である。

第3章幼稚園の衛生保健について、第13条では「食事の間隔時間が3時間半より少なくなってはならない」とし、第17条では「給食を提供する幼稚園では、幼児たちにバランスよい食事を提供し、幼児たちが給食で食べた量と栄養素についての計算と分析をするべきである」としている。

第4章 幼稚園の教育についての第23条で、「幼児のよい生活習慣と生活能力を育成する」とし、第26条で、「德育では、感情教育をはじめ、日常生活活動中に規則正しい習慣を育成する」としている。

第6章 幼稚園の従業員の職責について、第39条で幼稚園の保健教員は全園幼児の体の健康に対して責任を負って、その主要な職責は「(2) 幼児の食事を指導し、飲食、食品、飲用水と環境衛生を検査すること」としている。

さらに、中国の幼稚園管理条例には、「幼稚園では、幼児の身体の健康を保障し、よりよい生活・衛生習慣を育成する」¹⁷⁾ことと定めている。

5. 中国の幼稚園での給食指導の観察結果

劉は訪日直前に、中国天津市内の南開区第二幼稚園で学習実践指導として、幼稚園の朝食と給食の様子を観察した。観察期間は、2010年3月～6月までであり、毎週の木曜日午前8時前後からほぼ10時まで、時には12時まで観察を行った。

第二幼稚園の教育理念は、「命を大切に、健康を一位に」（关爱生命、健康第一）であり、幼稚園の健康教育を中心に幼児のよりよい生活習慣を育成する活動をしていた。食育に関する活動としては、給食の栄養量を測定して給食を作り、毎週にメニュー表を幼稚園の掲示板に貼り出していた。

食育についての指導では、“黙って食べてください”、“早く食べて”、“ご飯やおかずをテーブルの上でまき散らさないように”、“テーブルの上をきれいにしよう”などを教師はよく指示していた。

これらの観察結果は、薛焯氏が北京幼稚園での観察として指摘している事項と同様であった¹⁸⁾。

中国の幼稚園では、しつこくして注意することが多いという現実がある。このように、天津市内の幼稚園現場を観察したところ、給食時間では、ただ食事の早さと箸の持ち方などの指導しかしていなかった。また、給食時間は、話をせず静かに食べることもよく指導されていることである。中国では、日本のように「先生や友達と食べることを楽しむ」ことは求められていないのである。現時点で中国の幼稚園では、給食の時間を十分に活用していないと思われる。

VI. 中国の幼稚園における食育への示唆

日本では、子どもの食生活の問題を解決するために「食育基本法」を制定し、新たな「幼稚園教育要領」を改訂した。「食育」については、幼稚園教育の中で取り組み、様々な実践活動をして、楽しい食生活をさせようとしていた。さらに食についての知識を持たせ、食に関する生活習慣を身に付けさせ、意欲と感情などを育成しているという教育成果が明らかになった。

中国では、子どもにおける食生活の問題が日本より更に深刻であると考えられる。しかし、家庭・幼稚園・社会ともに、食生活の重要性を理解していないし、食育の

必要性も認識されていない。このため、食育に関する問題はこれから解決していかなければならない状態である。

現在、中国の幼稚園では「業務規程」の中で「食」については、管理活動が教育活動より多く求められている。ある幼稚園では、「食育」についての実践研究に取り組んでおり、適切な物質的環境の中で、幼児はバランスよい食事をすることができて、社会性を養成することができるといった結果を報告していたが、栄養について学ぶことや食欲を持たせる視点は見られなかった¹⁹⁾。

以上の状態を解決するため、まず人々の食育に対する理解と認識を変えて、幼児の食生活の中で食育をすることの大切さを認識させ、給食の時間を活用した食育を展開していくことが重要であろう。

中国の幼稚園の食育として、具体的には、以下の4点を提言したい。

1. 幼児が楽しく食事をできる雰囲気を作り、幼児たちが楽しみながら、食事時間を過ごせるようにする。
2. 給食の時間を十分に活用し、給食の内容によって、幼児に食べ物への興味や関心を持たせる。
3. 「食育」を通じて、規則正しい食習慣を身につけ、食事作りにかかわる人たちへの「感謝の気持ち」と「思いやりの心」を育成する。
4. 幼稚園の各課程（健康、言語、社会、科学、芸術の5領域）活動で、食育に関わる内容をとらえ、可能な範囲で関連付けて、食に関する活動を展開して行く。

本論文は、劉智萍が独立行政法人 日本学生支援機構（JASSO）の平成22年度帰国外国人留学生短期研究制度に採用されて、2010年7月3日から9月30日まで高知大学に滞在した際、劉が取り組んだ研究の成果をもとに、菊地が加筆修正し、論文としてまとめたものである。ご指導、ご助言をいただいた遠藤隆俊教育学部長をはじめ、若草幼稚園岡林道生園長先生、杉の子第2幼稚園山本健吉園長先生など関係各位に深く謝意を表したい。また、高知県幼保支援アドバイザーの上田淑子先生はわざわざ研究室まで来て下さり、日本の幼児教育についてご懇切なるご指導をいただき、本研究の指針を与えていただくことができた。ここに明記し深謝の意を表したい。本当にありがとうございました。

引用文献

- 1) 菊地るみ子・劉智萍、中日両国小学生の衣生活教育の現状と課題—天津市と高知市における事例調査を通じて—、日本家政学会誌 56・1、PP.35-39、2005年
- 2) 食育基本法 (<http://www.e-shokuiku.com/kiho-nhou/index.html>)
- 3) 森田倫子、食育の背景と経緯—「食育基本法案」に関連して—、調査と情報—ISSUE BRIEF—、457、P.2、2004年
- 4) 土居佐智子・菊地るみ子、中学生の朝食づくりに関する実践的研究、高知大学教育学部研究報告、71、2011年（印刷中）
- 5) 無藤 隆・民秋 言、NEW 幼稚園教育要領・保育所保育指針ガイドブック、フレーベル館、P.17、2008年
- 6) 5)に同じ P.20
- 7) 教育部2004年学生体质健康監測報告、教体艺6号、2005年（<http://www.edu.cn/20050720/3144054.shtml>）
- 8) 大河健康网、2010年 (http://health.dahe.cn/jk-yw/yw/201006/t20100602_27885.html)
- 9) 7)に同じ
- 10) 中国新闻网 2009年11月27日 (<http://www.china-news.com/>)
- 11) 厚生労働省、国民健康・栄養調査、平成17年（2005年）国民健康・栄養調査結果の概要 (<http://www3.ocn.ne.jp/~eiyou-km/newpage53.html>)
- 12) 中国幼儿园教育指导纲要（试行）2001-07-02 教育部印发 (<http://www.edu.cn/20060113/3170537.shtml>)
- 13) 12)に同じ
- 14) 12)に同じ
- 15) 12)に同じ
- 16) 中国幼儿园工作规程 1996-06-01实施 (<http://www.hxayxx.cn/gjc/010.html>)
- 17) 中国幼儿园管理条例1990-02-01实施 (<http://fagui.eol.cn/html/200909/131.shtml>)
- 18) 小朋友们、吃饭不许讲话 (<http://www.chinaelections.org/NewsInfo.asp?NewsID=45857>)
- 19) 中国东莞市实验幼儿园 (http://www.dgsyyey.cn/new_show)